

デジタル・パンフレット制作を通じた 情報教育とキャリア教育の両立

松下 慶太*1

Email: matsushita-keita@jissen.ac.jp

*1: 実践女子大学人間社会学部

◎Key Words キャリア教育, 情報教育, メディア・リテラシー, PBL, 協調学習, 越境

1. はじめに

本研究では iBooks Author を活用したデジタル・パンフレット制作プロジェクトを報告し、情報教育とキャリア教育を融合させた教育実践としての有効性と課題を示す。

近年、大学においてもキャリア教育の重要性は高まってきているが、学生のキャリア意識を高めるためには座学だけではなく、実際に働く人の話を聞くことが有効であると言われている。そこで本研究では大学生が働く女性へのインタビューを行い、キャリアへの意識を高めると同時に、それをデジタル・パンフレットにまとめるという大学3年生のゼミにおける教育実践について報告する。

制作には iBooks Author を活用し、映像、画像、文字を統合したものにす。こうした PBL (Project Based Learning) の実践を通じて、キャリア教育でありながら多様なメディア表現を身につける情報教育であると同時に、情報教育でありながらキャリア意識を高めるキャリア教育としても機能する授業の構築を目指す。

2. 昨年度までの実践の蓄積と課題

松下 (2011) はキャリア教育と情報教育との接合を目指した教育、カリキュラムを提案している。そこではソーシャルメディアが普及し、就職活動についてのさまざまな情報が飛び交う「就職活動の情報化」を踏まえて、大学の情報教育における PBL として就職活動をひとつのテーマとして取り入れることで、学習へのモチベーションが高まることが指摘されている。さらに、松下 (2012) は企業取材動画の制作実践を通じて、メディア・リテラシーとキャリア教育との接合の可能性を指摘している。そこで報告された実践は、送り手と受け手とが役割を柔軟に入れ替えながら機能している現代の社会におけるメディア・リテラシーの涵養と学生の目の前にある就職活動における企業への取材・インタビューという実際の局面でそれを発揮することで、同時にキャリア教育にもなっていた。

一方、メディア制作については、映像に特化することで生じる問題もあった。例えば、主体的に制作に携わることで映像に関するメディア・リテラシーを涵養することに関しては有効であったが、映像という手段を「なぜ」選択したのか、という点については無自覚になってしまい、映像以外の文字や画像といったメディアに関する意識が高まらないという問題もあった。また 2011 年度の実践においては、企業側の指定するパ

ッケージで制作したため、インタビューの相手を誰にするか、インタビューで何を聞くか、何をどのように撮るか、などに関しては主体的に携わっておらず、自由に制限があった。

3. 実践のデザイン

3.1 iBooks Author の活用とデジタル教材

2012 年度は以上で述べた課題を踏まえて、2012 年より Apple 社の提供する iPad 用マルチタッチ教科書作成アプリケーションである iBooks Author を活用して、映像、画像、文字を組み合わせたデジタル・パンフレットを制作する教育実践を行った。

今後教育現場でも導入が進むと考えられているタブレット、デジタル教材を想定するという意味でも、文字だけではなく、画像さらには動画も交えたデジタル・パンフレットを制作することは有意義な経験であると考えられる。

こうしたデジタル・パンフレットのテーマとして「働く女性」を取り上げ、学生が主体的に取材、制作に関わるという PBL (Project Based Learning) を通じての情報教育、キャリア教育、メディア・リテラシーを合わせた能力育成を目指した。

3.2 準備

3 年生の演習 (9 名) において実践を行った。3 年次は 12 月から就職活動が始まる。そのため、企業やキャリアについて、特に女性がどのように働いているのか、どのような意識を持っているのかといったことに関心が高い。

そういったことも踏まえて、本研究での取材先は高校・大学でのキャリア支援を行なっている「NPO カタリバ」、豊島区・NPO 法人いけぶくろ大明・NPO 法人 NEWVERY の 3 者による若者支援事業を行なっている「おとな大学」、求人情報の提供・就職支援などを行なっている「天職市場」である。いずれの組織も若者とキャリアに関わる活動を行なっている。

履修者 9 名を 3 名×3 グループに分け、これらの組織へのアポイントメント (取材日程の確定、インタビューを受ける人の確定) から各グループが行うこととした。日程の調整と並行して、取材・インタビューについての心構えや準備、それぞれの組織についての事前調査だけではなく、ビデオカメラでの撮影・編集の基本、iBooks Author の基本操作などスキルについても実際に操作しながら練習を重ねた。

3.3 取材と編集

アポイントメントを取った上で、1時間程度時間を取ってもらい取材・インタビューを行った。主なインタビュー項目はその組織での活動と、助成としてのキャリアの振り返りである。

その後、撮影したインタビューを文字起こしした上で、画像、動画を含めたデジタル・パンフレットを4～5ページ作成するという課題に取り組んだ。

4. 効果の検討

経験学習において、自らの経験をリフレクション(省察)し、意味付けることは重要である。そのため、取材終了後、3グループで取材、インタビューに関してリフレクションを行った。また、学生にリフレクション・シートを配布し、1. インタビューが終わって考えたこと(メディア制作について/キャリアについて)、2. 取材、インタビューを通して自分の中でどのような変化、成長があったか、3. グループで制作を進めていくことについて、楽しかったこと、自分の役に立ったこと、今後こうしていきたいといった抱負、をそれぞれ記入してもらい、回収した。以下に主な回答を示す。

4.1 メディア制作について

- 「予想外のテーブルやイスの配置、本人を目の前にした緊張や焦りで、すぐにどういう画が撮りたいか判断することができなかった。」(ディレクター担当学生)
- 「始めていった場所だったので、(カメラ)位置の配置が難しかったし、実際、ズームなどをどのタイミングにすればよいのかが分からなかった。もっと事前に詳しいところまで具体的な撮り方や映し方を決めていけばよかったと思った。」(カメラ担当学生)
- 「〇〇さんが答えて下さったことに対して、反応しきれず話を広げられなかったのが反省点です。」「取材にいたるまでの期間は長く、準備をしっかりしていかなければ、濃いインタビューにはならない。」(インタビュアー担当学生)

4.2 キャリアについて

- 「女性は結婚を意識して職に就くものかと思っていたが、インタビュー回答者の方は全くといっていい程、意識していなかった。」
- 「働くことは大変なことで何かあるたびに悩んでそれを解決するという作業の繰り返しで、それをきちんと逃げずにやっていくと経験にもなり強くなるというお話が印象的でした。」

4.3 自分の変化、成長について

- 「社会人の方と話す、触れ合う難しさを改めて感じました。また、お話を聞いて社会で働くことの大変さ、楽しさについて具体的に考えるようになりました。」

- 「私は〇〇さんのお話を聞いて、自分がやりたいと思ったことや仕事に対してひたむきに努力したいと思いました。」
- 「ディレクターの難しさ、取材の難しさを実感した。もっと責任をもってたくさん勉強してから出向かなければならないと思った。」
- 「あまり上手く行動することが出来ずにディレクター頼りになってしまったのですが、次はそれを自分で出来るようにやるべきことを言われる前に気づいて出来るようになりたいと思いました。」

4.4 グループ学習に関して

- 「グループ内で情報の交換や共有をすることはものすごく大事なことのだと思いました。また話だけを聞くのではなくて体験したり事務所に足を運び、感じをつかむことも大事だと思いました。」
- 「自分の意見を主張しながら、みんなの意見もまとめることが勉強になった。」「役割分担をして、一つのものを作り上げることが楽しいと感じた。」
- 「3人で話し合い、協力して準備し、実際に取材を終えて既に少し達成感があり映像の形にできて嬉しいです。社会人の方とのふれあい方や接し方について勉強になり、貴重な経験でした。」

5. まとめ

リフレクション・ペーパーにおける回答を見る限り、インタビュー、そしてデジタル・パンフレット制作を通して、キャリアあるいは情報教育、メディア・リテラシー、協調学習に関して、自ら課題を発見し、反省し、充実感を得ている。必ずしもすべてがポジティブな成功体験ではないが、そうした経験を次につなげようとする意欲が見られたことから、座学・講義と比較しても、有効な教育実践であったと考えられる。

また、キャリアに関して、荒木(2008)は職場学習研究において「越境」の重要性を指摘しているが、本研究における実践でも、一時的であれ、企業・団体に参加し、そこで社会人と取材を通じ、相互作用をするという学生の大学からの「越境」がキャリアについての意識を高めることにつながっていると考えられる。

参考文献

- (1) 荒木淳子：職場を越境する社会人学習のための理論的基盤の検討：ワークプレイスラーニング研究の類型化と再考, 経営行動科学, 21(2), pp.119-128 (2008).
- (2) 松下慶太：大学における一般教育としてのキャリア教育と情報教育の着地点, Computer & Education, コンピュータ利用協議会学会誌, vol. 30, pp.42-47 (2011).
- (3) 松下慶太：メディア・リテラシーとキャリア教育の両立を目指した実践 -メディア・リテラシーとしてのキャリア教育, キャリア教育としてのメディア・リテラシー-, 実践女子大学人間社会学部紀要, 第8集, pp.71-80 (2012).